

授業科目名	地域精神看護学	担当教員	◎宮本眞巳、中島洋一 松丸直美
選択	開講年次：4 年前期	単位：1 単位	授業形態：講義 15 時間

【授業概要】

精神的な健康問題の評価方法や、地域精神保健福祉の制度・システム・資源についての理解を踏まえて、精神保健上の問題を抱える人々の生活自立と社会参加の支援に向けて、看護職が担うべき役割について学ぶ。

【授業目的・目標】

1. 生活者の精神保健を包括的に評価するための方法について学ぶ。
2. 地域精神保健福祉の制度・システム・社会資源について学ぶ。
3. 多職種連携による地域包括ケアにおける看護師の役割について学ぶ。
4. 家族関係をめぐる精神保健と家族問題への介入方法について学ぶ。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|------------|
| [01] 地域における精神保健福祉の現状と課題 | (宮本) |
| [02] 精神保健に問題を抱える人のアセスメントと援助関係の形成 I | (宮本・中島・松丸) |
| [03] 精神科デイケアの機能と看護職の役割 | (宮本・中島・松丸) |
| [04] 精神障害者の訪問看護 | (宮本・中島・松丸) |
| [05] 地域精神保健福祉領域における多職種連携 | (宮本) |
| [06] アディクション問題を抱える人の地域支援とセルフヘルプグループの機能 | (宮本) |
| [07] 家族の精神保健と児童虐待防止・DV 防止に向けた支援 | (宮本) |
| [08] 精神保健に問題を抱える人のアセスメントと援助関係の形成 II | (宮本・中島・松丸) |

【教科書】

1. 武井麻子編集 (2013) 精神看護の展開 精神看護学 2, 医学書院

【参考書】

1. 信田さよ子著 (1999) アディクションアプローチ—もうひとつの家族援助論—, 医学書院
2. 斎藤学著 (1995) 魂の家族を求めて—私のセルフヘルプ・グループ論, 日本評論社
3. 谷中 輝雄、小宮敬子他編集 (2000) 障害者・精神保健地域看護活動 (地域看護学講座), 医学書院

【評価方法・評価基準】

授業参加リフレクティブレポート 20%、課題レポート 40%×2

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：精神科入院治療と地域精神保健活動の関連について調べておく。

事後学習：授業で取り上げる 8 つのテーマの内、関心のあるテーマについて課題整理を行う。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 質の高いケアを実践するためのリーダーシップ能力、Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅵ. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力、Ⅷ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業参加リフレクティブレポート、及び課題レポートについて授業時間中にフィードバックを行う。

【備考】

精神保健看護学概論、精神保健看護援助論の他に、在宅看護学Ⅰ、地域看護学とも関連が深いので、共通の課題が明確にできるように学習を積み重ねて欲しい。